

『社会言語科学』特集論文の募集のお知らせ

学会誌編集委員会では、「特集・方言」の論文を募集しています。特集に投稿された論文は、通常の投稿論文と同じく、査読を経て掲載が決定されます。原稿の種類、原稿の書き方、投稿のしかた、投稿先などは、通常の論文の場合と同じです。投稿に際し、「特集」のための論文であることを明記してください。

論文投稿の期間 : 2003年8月1日から2003年11月30日まで

掲載号の発行 : 2004年7月(第7巻第1号に掲載予定)

論文の投稿先 : 学会誌編集委員会委員長 日比谷潤子

E-mail: jhibiya@jcu.ac.jp

Fax: 0422-34-6983

〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2 国際基督教大学語学科

お問い合わせ先 : 学会誌編集委員会委員長 日比谷潤子

特集・方言

「社会言語科学」が枝葉を大きく広げて森となっている現在、「(地域)方言」を対象とした研究は、その森の中の小さな一枚の葉だろうか?そして「方言」は危機言語として失われつつある、要保護種であるだけの存在であろうか。そうではないことは、「方言」と「言語」の境界に目をやれば、たやすく理解することができるし、日々用いられている言語が「方言」そのものであることを考えれば、明らかであろう。また、「方言」を社会との関わりから切り離して考えることは今や不可能であるということからも、「方言」は「社会言語科学」の重要な研究対象であると言えるだろう。

そして、方言研究においてあるいは社会言語学において、「伝統的」とされるアプローチによる研究は、本当にその役割を終えているのだろうか?「新しい」アプローチによる方言研究は存在しないのだろうか?本特集のテーマをシンプルに「方言」としているのは、「地域方言」を指すが、対象とする地域・国家を問わない、方法論も問わない、という特集の態度を示したかったからである。問うのは、「方言」という素材を通して見たときに、これまで見通せなかった「何か新しい知見」に通じる研究、ということだけである。それは、「方言研究」に対してということも含むが、より広く言語、社会、人間に関する「新しい知見」となるだろう。

「伝統的」なアプローチによる方言研究、これまでのアプローチとは異なる手法による方言研究、いずれも本特集の対象としたい。

さしあたり、思いうかぶ「方言研究」を順不同で列記してみた。もちろん、以下のリストからはみだす、意表をつくテーマの方言研究が寄せられることも胸の躍ることである。

社会言語学的研究の源流としての「方言研究」/危機言語としての「方言」/記述的方言研究/比較方言学的研究/言語地理学的方言研究/計量言語学的方言研究/社会言語学的方言研究/政治的観点からみた方言研究/経済的観点からみた方言研究/方言文法研究/言語調査としての方言調査/文献による方言研究/翻訳における方言/発達言語学的方言研究/…

ごく当たり前のテーマであるようでいて、そうではない、そのような特集号をめざしたい。積極的な投稿を会員のみなさまにお願いしたい。(企画担当編集委員 田中ゆかり)